

# 平成2年度化学工学会「技術賞」受賞 「高効率重合反応装置」の開発

Recipient of the 25th Awards of The Society of Chemical Engineers, Japan  
Development of High Efficiency Polymerization Reactor



塩化ビニル樹脂(PVC)の高効率生産を目的とした「高効率重合反応装置」の開発で化学工学会'90年度「技術賞」を受賞した。この「技術賞」は国内の化学工業関係の賞の中でも特に権威のあるものの一つで、三月二十九日明治大学で開催された化学工学会定時総会において、共同開発者である呉羽化学工業(株)殿と共に表彰の栄に浴した。

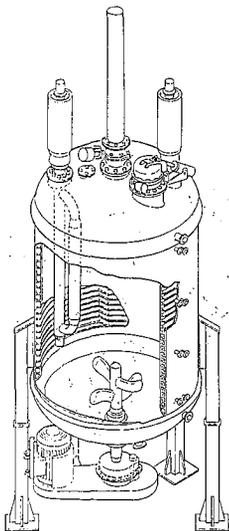
「高効率重合反応装置」は構造関係を神鋼パンテック(株)、反応関係を呉羽化学工業(株)が開発分担した。'81年呉羽化学工業(株)殿に納入した実証設備で、次の優れた特性が確認された。

(1) 高い伝熱係数が得られ、高品質の製品が製造できる。

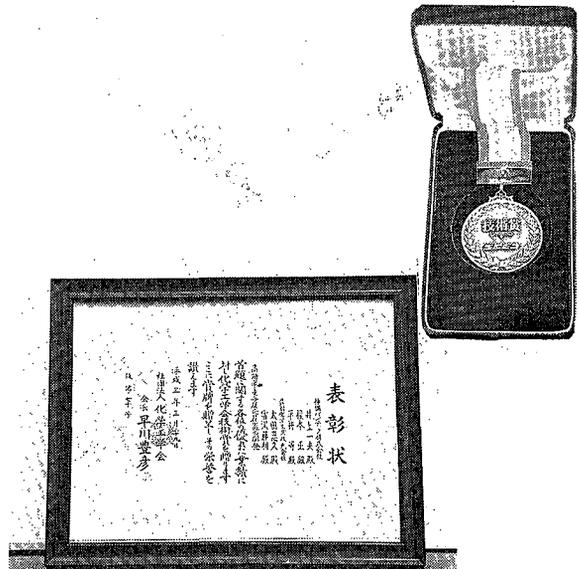
(2) 内面が平滑であり、ポリマーが付着しにくく、洗浄が容易である。

(3) 従来型重合装置に比較し2~3倍の高生産性に経年変化がなく、スケールアップしても同一性能が得られる。

'88年より営業、技術、製造一体となってPVC製造各社でPR活動を展開、受注活動に取り組み、現在の受注実績は13基、容量総計750m<sup>3</sup>に達し、化工機事業部の主力製品の一つに成長した。今後PVC用途のみならず、付着性ポリマー用、高発熱型重合設備用として、国内および海外ユーザーへも積極的に拡販していく。



高効率重合反応装置  
High efficiency polymerization reactor



## 「NEW SP 95」

エクセレントカンパニーへの飛躍を目指す

Planning of a great leap for Excellent Company

神鋼パンテックの21世紀に向けた事業体制づくりがいよいよ本格化する。昨年4月から新中期計画をスタート、「基礎固めから新たな創造と展開」を旗頭に、生産体制の再構築、研究開発、販売体制の強化などを積極的に推進している。また、気体関連環境装置事業にも進出、業容拡大に弾みを付け、次世代を担う「エクセレントカンパニー」への飛躍を目指す。

同社は、'89年の創立35周年を機に社名変更(旧社名・神鋼ファウドラ)を行い、21世紀に照準を合わせた経営基盤強化策に乗り出した。その第一弾が昨年度(90年度)から開始した中期計画「NEW SP 95」だ。最終年度の95年3月期に売上高500億円(うち100億円は新製品)、経常利益率5%(25億円)を目標に掲げている。また関係子会社(5社)で100億円を確保、グループとして600億円を達成する計画。さらに産業界の堅調な設備投資マインドを受け、生産性向上による体質改善を進め、中期計画の前倒し達成に踏み出そうとしている。

このため新製品開発体制の充実、生産体制を再構築し生産の効率化を推進。また多様化するユーザーニーズにフレキシブルに対応する販売体制を整え、既存事業の深耕と業容拡大を図る。

研究開発体制では、神戸ハイテックパーク(神戸市西区)内に技術開発センター「西神研究所」を建設する。クリーンルーム、分析計測設備を備えた研究棟、実験棟からなり、同社の将来を担う主力製品の開発に取り組む。また生産体制では、92年年初にはステンレス鋼製機器、グラスライニング(GL)製機器など化学工業用機器の生産を播磨工場(兵庫県加古郡播磨町)に一元化し、工場を本格稼働させ、生産性、品質向上にさらに注力する。

また昨年10月1日付で従来の冷却塔事業部を「気熱装置事業部」と改称、気体関連環境装置分野に本格進出した。これにより環境関連事業として水処理装置に新たに気体関連環境装置が加わり、化工機、気熱装置、環境装置の各事業を軸とした裾野の広い事業展開が今後期待される所だ。  
(’91.4.20 化学工業日報)

## 神戸に技術研究所建設

Construction of technical institute starts in Kobe Hi-Tech Park

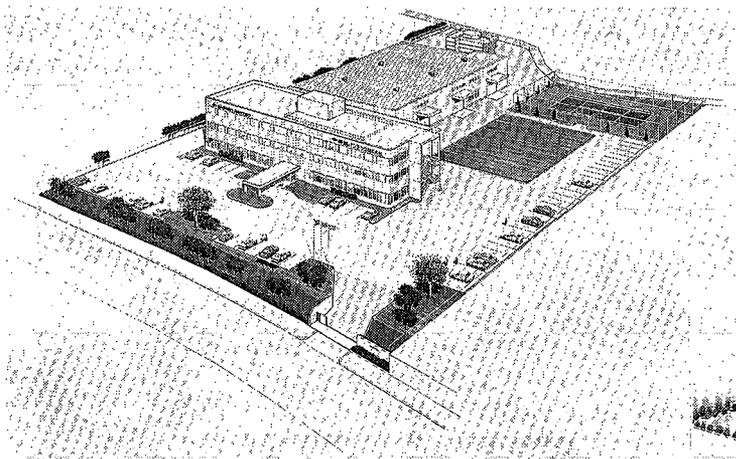
神鋼パンテックは、神戸市内に「技術研究所」を建設する。本格稼働は来年の3月。研究開発体制の強化策の一環で化工機などの各事業部の研究開発部門を集約一本化を図り、次世代を担う新技術、新製品の開発力をさらに高めるのが狙い。

同研究所は、神戸ハイテックパーク(神戸市西区室谷)に建設する。敷地面積は11560m<sup>2</sup>で、研究棟(3階建て、延べ床面積2323m<sup>2</sup>)、実験棟(一部2階建て、同2085m<sup>2</sup>)を建てる。5月21日から建設工事に着手、来年1月に完成、同3月から本格稼働する予定。投資額は土地代を含め約20億円。当初約100名でスタートする。

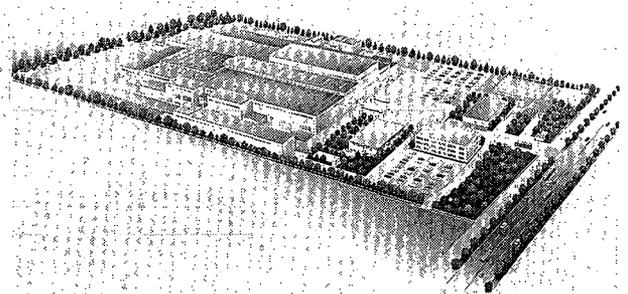
同社は現在、95年度を最終年度とする中期計画「NEW SP '95」を展開している。生産関連では化工機の生産を播磨工場(兵庫県加古郡播磨町)への統合を行うなど長期的展望に立った事業基盤の再構築を同中期計画中に完了する計画。

研究開発体制は、本社、播磨工場に分散している技術開発本部や化工機、環境装置、気熱装置の各事業部の研究開発部門を同研究所に集約することで強化拡充を図る。主要研究テーマは、新素材、バイオテクノロジー、攪拌・混合技術、粉体技術、高度分離技術、FAソフトウェア、超純水製造技術、廃熱処理技術など。

(’91.5.31 化学工業日報)



技術研究所  
Technical institute



播磨工場  
Harima plant